二月の園藝

東京女子高等師範學校教授　有川ひさえ

一月や二月は昔から農閑といひ、何にもする事がなくて、火にでもあたつて居ればよい時のやうに聞えるが、さうではない、矢張り此頃には此頃の仕事がある。殊に小供は風の子といはれる通り寒さなどには平氣なものである。小供でなくても働いて居る人は、火鉢を抱へて寒さを怖れて居る人より暖いのである。霰や風の中でも、鍬を握つて寒さと戰つて居る時には汗が流れる。氣持ちがよい。大人でも仕事がやめられぬのである。

一　花壇や畑の粗耕

冬の間は大抵の花壇や畑は空になつて居るものであるから、此間に深く粗く耕起して置くとよい、凍つてそれが砕け、春になるまでによくこなれた土となる、殊に種の害蟲の越冬して居るもの等も同時に掘り出して、死滅さすることが出來る。せいぜい深くしたい、さうする内には年々と、耕土の深いよい花壇や畑となる。又粗く耕起して置きたい、此方がよく空氣や光線を通し、土壤の風化や、肥料の分解や種々有益なる作用が充分に行はれ易い。初めから細かく砕いて、均して置いたりするのは是等の目的にあはない。

此仕事は冬の實習には最も適してゐる。出來るなら鍬の數をせい〳〵澤山にして置いて、めいめいに持たせたい。勿論鍬は重量や柄の長さ等を考へて、小さい働者が苦しまずに働けるやうには心配してやらねばならぬ。

二　培養土の製造

是れは恰も事業をする時の資本のやうなものでこれなくてはとかく苦勞が多くて、成功が覺束ない。殊に春になり、菊や朝顏の一鉢宛も、各兒に丹誠させたいとも思つたら、是非この支度をして置かねばならぬ。此支度さへあつたなら、年中何でも、らくに培養する事が出來る。花屋では一舛幾錢といつて、はかり賣りにして居るが、買つてするやうでは、心細いし娯しみも少い。造り方等は人々によりまち〳〵である。落葉は是非欲しい、これは掃除の際に、はきよせたのを、塵箱にすてたり、燃して灰にしたりなどしてしまはず、庭の隅の方にでも集めて置いて使へばよい。この他に豚舍とか、鷄舍のやうなものでもあつて、褥藁なり、屎なりを得ることが出來たなら、申分はない裏庭の日のあたらぬ、目ざはりにならぬ所で、深さ四五尺の孔を掘つて置いて、此處に前の材料をだん〳〵搬び入れて、下肥なら充分であるが、これが仕憎かつたらどぶ水でも何でも濁つた水をかけてやればよい、此上に、同じ容積位の畑土を運び入れ、これを繰り返していつぱいになつたら上は莚とか、板のやうなものでも被ふて、せい〴〵雨にうたせぬやうして置きたい。尙ほ成るべくは一月も離て丶二三回掘りかへしてよく混合し、此際水肥のやうなものをかけてやるべきである。

もつと簡單に、溝底の土を浚へあげて乾して置き、かたまつたのを碎いて篩つてしまつて置いても、此中には落葉や他の有機分が澤山含つて居るからなか〳〵好ましい。培養土としては土中に落葉のやうなボロ〳〵した形のあるものを含み、且つ肥えて居ればよいので、斯樣な土を用ふると鉢内が常にフワリとして水ぬけはよいし、日はよく通ふし、自然、土中が温かで植物の根はよく育ち、隨つて全體の成育をよくするのである、ちと憶劫な仕事のやうに聞えるけれど、小供には決し

て憶劫な仕事でない。運搬さへすればよいので、唯だ先きに立つてする人が喜んでするならば、小供には大滿足の仕事である。殊に仕事を了へた時の小供のうれしさうな面持ちは斯く筆を運ぶ間にもあり〳〵とうかゞはれる。目的のない運動よりいくら樂しみかしれぬ。冬の間に仕込んだ土は早速今年の春夏の使用に間に合はせる事は出來るが一年もたつてつかふと一層好ましい、一寸數鉢すぐ間に合はせたい等と思ふ時は、ゴミ溜の底の方のボロボロした黑い土をとり、二三日も日に乾して置くと、みゝずとか他の害蟲等が出ていつて早速用ふることが出來る。

三　春に蒔く種子物の準備

來月末（東京以西ではもつと早くから）になるとボツ〳〵種子蒔きを初めねばならぬから、今の内に其つもりをして置くべきである。本年の夏から秋にかけ花をみたり收獲したりするものは大抵春に蒔くのであるが、幼稚園でどんなものを作るべきかは次回に述べたいと思ふ。

種子は成る可く購入を少くし自園で採ることにしたい、これは容易いやうで、なか〳〵むづかしいもので、つい時を過し、氣の附い時にははや種子は落ちてしまつて居るといふ場合が多い。出來るなら、此花は誰れ、といふ風にめい〳〵分擔して採種させ、せい〳〵澤山に採らせて互に分配しあふやうにもしたい。種子を採ろうと思つたら此間に綿密な觀察力を養ひ、又收穫のたのしみもえられる。殊に自分の採つた種子を更に蒔いて世話するのは他所からの種子を育てるより一層たのもしいものである。

種子を他から買ふといふ事は決しておつくうがらずに少しく遠方であつても、信用のある種子屋からにすべきで、あまり蒔時にせまらぬうちに葉書一枚出すと、カタログを送つて來るから、これによつて注文して置けば間にあふやうに届けて

くれる。

序に申添へたいと思ふ事は、種子を郵便で他に送つたりする場合に、これは特に農產物種子として第五種郵便で、三十匁までは開封にして一錢貼りさへすればよいのであるが、よく二錢を貼つたり、時には手紙か小包のやうに封じてしまつて種子代よりも高價な郵稅を拂つて居る向きもあり、餘り胡亂な事に思ふ。老婆心からこんなつまらぬ事までつけ加へて置く。

◎日本幼稚園協會常集會

本會は、卷首に掲示の通り、來る二月八日（第二土曜日）午後正一時半より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て常會を開き、當日は倉橋惣三先生の「斯く育てたしと思ふこと」及び權田保之助先生の「おもちや繪の話」と云ふ、興味ある御講演があり、又、この繪のお話については、實際の參考になる品の展覽もあります。直接幼稚園に御關係の方は勿論、家庭のお母樣お姉樣方もお誘ひあはせて、奮つて御來會を希望いたします。